

ふるさと 資料紹介

= (33) =

古文書にみる
近世庶民のくらし①

（おそれながら）」と代官所へ報告しております。それによりますと、夜、「はざ」に架けてあつた稲や軒下に埋めておいた芋の種を盗んで捕つた者、干してある衣類を盗む者など、他国者のプロの仕業とは思えない品物ばかりでした。

十月のある夜、藤八の娘が、大根を盗み、捕らえられました。その事件と後の経過を記した報告書が左です。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

（平成六年二月分）

○近世文書など多数

（大畑守道さん／本郷町）

市社会教育課博物館建設係
（内線二六二）まで情報をお寄せください。

天明六年（一七八六）は平成五年と同じように、全国が凶作でした。今と違って、外国はおろか、隣の藩からも米は売って貰えず、特に東北地方では、多くの餓死者を出しました。

美濃加茂地方も、餓死者こそ出ませんでした。生活は楽ではありませんでしたが、生活は楽でか頻々と盗難が発生しました。

当時、太田村の庄屋をしていた林市左衛門は、その度に「乍恐

乃忍守道守道守道

先月十四日夜藤八娘なおと申す者田面一御座候大根盗取申
先月十四日夜藤八娘なおと申す者田面一御座候大根盗取申

以下略

先月十四日夜藤八娘なおと申す者田面一御座候大根盗取申…

ふるさとの宝ものみつけ！